



## 公開シンポジウム「学校・地域・社会で共創する教職の魅力」を開催

2月27日(土)、愛知教育大学次世代教育イノベーション棟およびZoomによるオンライン方式にて、公開シンポジウム「学校・地域・社会で共創する教職の魅力」を開催しました。

野田敦敬学長より開会の挨拶、真島聖子学長補佐より本シンポジウムの趣旨説明の後、宮川貴彦准教授より教職の魅力に関する調査の結果について報告がありました。

前半では、各シンポジストから教職の魅力に関するご提案が示されました。

柳澤好治氏(文化庁国語課長)からは、教員採用試験の受験者数低下の要因、教員不足の実態例、文科省の教員確保に向けた施策などが示されました。そして、社会の大きな変化は教員養成大学にとって追い風であるという認識が必要であること、日本語指導の必要な子どもたちが圧倒的に多い地域である特性や、「教科専門」の深みを教員養成に生かすことを愛知教育大学の「強み」として打ち出していく必要性が提起されました。

浅井厚視氏(津島市教育委員会教育長)からは、津島市における地域と連携した多面的な取り組みについて紹介がありました。教師は、教材研究や授業づくり、学級づくりにおいて裁量の大きな仕事であり、①コミュニケーション力、人への関心、②構想力(見通す力)、構想実現力、③学級・学年経営力、④教科指導力、⑤事務処理能力から成り立つものとして教師力を理解し、成長させていくことが必要であると述べられました。

松永光司氏(キャッチネットワーク代表取締役社長)からは、自社の働き方改革を紹介しつつ、「意識を変える、仕組みを変える、ツールを変える」の3つの柱によって「働きやすい会社」から「働きがいのある会社」へと転換する取り組みが紹介されました。こうした観点から、学校におい

ても、労働時間、デジタル化、標準化、効率化の改革が必要ではないかと問題提起がありました。

山本久美氏(エスワイフード代表取締役)からは、楽しみながら仕事ができる環境づくり、意識改革やチーム作りについての自社での取り組みが紹介されました。社員が自由に考えることを尊重することともに、「まねる」ことから学びを始めていくことの重要性が指摘されました。こうしたことから、ワクワク感を平等に持たせ、子どもたちが「学ぶことは楽しい」と思えるようにするため、教員養成大学にはコミュニケーション能力の育成を大切にほしいと期待が述べられました。

野田学長からは、本学のビジョンやキャッチフレーズ「子どもの声が聞こえるキャンパス 地域から頼られる大学」、これらに基づいた本学のカリキュラム改革の現状が説明されました。そして、地域、学校、教育委員会、NPO、企業などと連携した教職の魅力づくりを進めていきたいとの意気込みが語られました。

後半では、アンケート調査の結果や司会者が提示した論点、オンライン参加者からの質問を受けて活発なディスカッションがありました。そのなかでは、教職の創造的な専門性や社会貢献的な性格を確認しながらも、世の中の変化に敏感になる点で弱さがあることや学校を外部に開いていくことが求められているとの意見が出されました。学校が地域・コミュニティの核となり、教師が地域に働きかけていくこと、学校・教師がすべてを抱え込むのではなく地域に委ねられる部分は任せていくこと、地域の多様性を認める社会づくりの中心的な役割を担っていくことなど、今後の教職の在り方を考えていくための重要な論点を確認できた意義のあるシンポジウムとなりました。



柳澤好治 氏(文化庁国語課長)



浅井厚視 氏(津島市教育委員会教育長)



松永光司 氏(キャッチネットワーク代表取締役社長)



山本久美 氏(エスワイフード代表取締役)



野田敦敬 氏(愛知教育大学学長)



Interview

## 教職の魅力インタビュー



### 次代を担う子どもを育て、子どもを支える教師を育てる未来創造の仕事

兼子 明 校長

西尾市立平坂中学校

教職33年目(小学校9年、中学校17年、行政7年)

教科：社会



インタビュー動画

#### 》 教師をしていて良かったと思うのはどのようなときですか？

何よりも子どもの成長を間近で見ることができたときです。授業で今までとは違う伸びや新たな良さを感じられる場面に出会えることは何事にも代えられない喜びです。また、同じ志を持つ同僚や先輩の先生方との出会いも楽しみの一つです。未来に向かってクリエイティブに語り合い、創り上げていくところが魅力です。

#### 》 校長をはじめ教育行政職などを経験される中で心がけていることは何ですか？

「当たり前」の初期化です。これまで自分が当然だと思っていたことがそうではないということを様々な機関で働く中で体感しました。常に広い視野を持って、次に生かすという姿勢が大事だと思っています。

#### 》 これからの教師に必要なことは何ですか？

最近では多様性ということが話題になっていますが、そうした色々な面を持つ子どもたちは以前よりも格段に多くなっています。それに対して、普遍性というか、どんな違いがあってもここは同じだということが学校という場では必ずあると思います。このあたりをいかに今の時代に合った形でバランスを取るかが大事な力だと思っています。

Interview

## 教職の魅力インタビュー



### “生徒ファースト”で 彼らの未来に携わる仕事

宮本 真衣 先生

愛知教育大学附属高等学校

教職6年目

教科：英語



インタビュー動画



#### 》 高校の英語教師を目指したのはなぜですか？

生徒の進路選択の手助けをしたいと思ったことが高校教師を目指したきっかけです。また、人と関係を創っていくコミュニケーションツールの一つとして英語を教えることができれば、高校生の心も育てることができるのではないかと考え高校の英語教師を選びました。

#### 》 教師として心がけていることは何ですか？

いつも意識しているのは“生徒ファースト”ということです。授業に関しては、どのようなことに興味を持っているかなど生徒のニーズに合わせて心に心がけています。部活動では、生徒がどのように活動に取り組みたいかを大切に指導しています。

#### 》 先生にとって教師とはどのような仕事ですか？

こんなにも多くの人の人生に携わる仕事は他にないと思います。同じ年齢でも悩むことも違えば目指すことも違う子どもたちがいます。そういう彼らの人生に携われるのは本当に幸せな仕事だと思っています。

#### 》 教師を目指す人へ

私も自分が教師になっていいのかという思いがありました。しかし、実際に生徒を目の前にしたとき、彼らのためにどれだけ自分が頑張れるかがこの仕事には求められると思いました。その思いがある人であれば、教師になる素質を持っています。生徒の未来に携われることにやりがいを持って是非教師を目指してください。

Interview

教職の魅力インタビュー



## 子どもたちと感動を 分かち合うことのできる仕事

園尾 朱里 先生

名古屋市立西城小学校

教職15年目



インタビュー動画



### 》》 小学校教師としてのやりがいは何ですか？

子どもの成長をたくさん見ることができると感じます。私は、修士論文の研究から一貫して、子どもが自分自身の成長に気付けるように意識して教育活動を行ってきました。子どもたちが「みんながいたからできた!」「前はできなかったけどできるようになった!」という喜びを感じ、うれしそうにしている姿を見ていると本当にやりがいを感じます。昨年、初任の時に担任した1年生の教え子達の成人式に参加しました。昔からの夢を叶えて成長している姿を見たときに、教師として担任としてできることはわずかなことかもしれないけれど、一人一人の人生に関わることのできる教師という仕事は素晴らしいと改めて実感しました。

### 》》 先生にとって「教師」とはどのような仕事ですか？

とっても大変、でもやはり楽しく感動のたくさんある仕事だと思います。小学校教師は、朝から帰りまでずっと子どもと一緒にいます。想定外のことや悲しいこと、大変なこともあります。しかし、それ以上に喜びがたくさんあふれていると思います。以前は全く飛べなかった大縄飛びを3分で200回以上飛べたとか、みんながいるからお店屋さんごっこが成功した、計算が苦手だった子が今日は合格できたなど、日々の小さな喜びを子どもたちと一緒に分かち合うことのできる本当に感動の多い仕事だと思います。

Interview

教職の魅力インタビュー



## 子どもや保護者と一緒に成長を喜び、 悩みを分かち合う仕事

児玉 隆則 先生

愛知県教育委員会 特別支援教育課 指導主事

教職23年目(養護学校8年、聾学校14年、行政1年)



インタビュー動画



### 》》 特別支援教育に携わる教師に必要なことは何ですか？

子どもたちの変化に気づくことのできる目を持つことだと思います。子どもたちのちょっとした変化や困っていること、喜びを見つけることのできる目を持ち、励ましたり側にいてあげたりすることの力があるといいと思います。

### 》》 特別支援教育の魅力ややりがいは何ですか？

人を育てるという仕事はなかなかないと思います。特別支援教育では、いろんな障害を持った子どもたちがいて、どういったアプローチをしていくと子どもたちが成長していけるかを考えたり、周りの先生達と一緒に授業をつくっていくことが魅力の一つだと思います。もう一つは、特別支援学校では、小学部、中学部、高等部すべての段階が一つの学校にあるので、小学部で教えていた子どもたちに高等部を卒業するまで携わることができます。私も小学部5、6年生を担当した子どもたちが高等部を卒業する際に就職や進学のお手伝いをすることができました。長い間子どもに関わることから、保護者とも関わりが深くなりますので、一緒に喜びや悩みを分かち合いながら進めていけるのが特別支援教諭のやりがいだと思います。

### 》》 教師を目指す人へ

「教師」というと、つい「教える人」というイメージを持ちますが、子どもと一緒に何かを創り上げることを楽しめるような人であってほしいと思います。一緒に成長を喜んだり、一緒に何かをすることを楽しんだりできる方に是非教師になってほしいと思います。

# 教職の魅力, その向上への課題



12月12日(土)、愛知教育大学次世代教育イノベーション棟にて「第2回地域フォーラム 教職の魅力, その向上への課題」を開催しました。第1回は多様な職種、経歴をお持ちの方々と「教職の魅力」について考えましたが、今回は、これから将来を決める高校生6名とその保護者の皆さんにご参加いただき、教職という職業の魅力や課題などについて議論しました。

今回のフォーラムは2部構成で、前半は、教職を志望する高校生とその保護者のグループと教職以外の職業を考えている高校生とその保護者のグループに分かれて話し合い、後半では、高校生のグループと保護者のグループに分かれて議論しました。

会の最後には、「これまで職業について友人と話す機会がなかった」「教職のことを一生懸命考えている人がいるということがわかった」「職業についての子どもの考えを聞いた」など、参加者全員に一言ずつ感想を述べていただきました。改めて、教職のイメージの多様性と共通性を確認することができた場となりました(本フォーラムの詳細内容は「教職の魅力共創」ウェブサイトをご覧ください)。

## 教職の魅力アンケート調査を実施

教職の魅力向上の取り組みの1つとして、様々な立場の方々を持っている教職の魅力やイメージを明らかにする「教職の魅力に関するアンケート調査」を実施しました。今回の調査では、同じ設問内容を用いて3つの異なる方法で調査を行いました:(1)一般成人を対象とした全国規模のオンラインアンケート調査(2)愛知県内の中高生を対象としたマークシートアンケート調査(3)主に附属学校保護者・教職員や本学学生を対象としたウェブアンケート調査です。これらの調査によって全国から合計6713件の回答を得ることができました。

調査の設問内容は、教職に対する魅力度、魅力的だと思う職業、教職のイメージ、学校教員の働きがいなどに関するものでした。教職に対する魅力度の回答結果(下図)から、調査対象者によって教職に対する魅力の度合いが大きく異なることがわかりました。

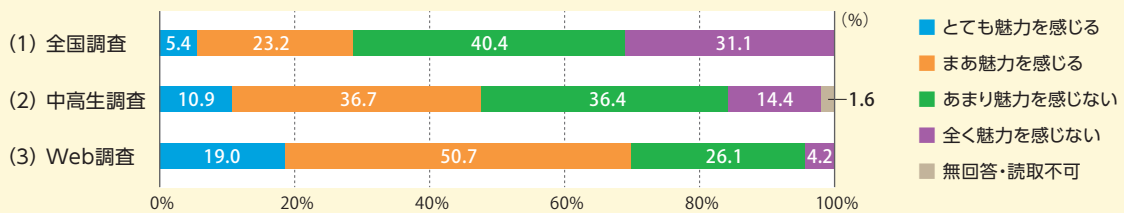


図:「あなたは教職に魅力を感じますか」という設問に対する回答結果

また、回答者の魅力的だと思う職業と教職に対する魅力度の回答結果をかけ合わせることで「人と関わる仕事」や「世の中のためになる仕事」に魅力を感じるものほど教職に魅力を感じ、「長時間労働がない」「仕事上のストレスが小さい仕事」に魅力を感じるものほど教職に魅力を感じないという傾向が明らかになりました。この結果は、教職に対する魅力度は個人の持つ職業観に依存することを示すものです。

教職のイメージや学校教員の働きがいについての回答結果から「教職は働きがいがあり職業として安定しているものの、長時間労働が多く仕事上のストレスが多い仕事」というイメージが広く定着していることがわかりました。一方で「創造的で発展的な仕事」や「仲間と協力しあえる仕事」については、教職に対する魅力度によってイメージが大きく異なることもわかりました。

上記の分析の詳細な内容と回答結果のデータについては「教職の魅力共創」ウェブサイトに掲載されている報告書をご確認ください。報告書には、他にも学校教員が抱えるストレス、学校教員に求めるもの、教職に対するイメージがどこから得られたについての設問に対する回答結果の分析も示されています。

### ご案内

### シリーズ

## 「教職の魅力共創」募集

愛知教育大学(主催「教職の魅力共創」編集委員会)では、多様なステークホルダーが「教職の魅力」を共に高め、創り、共有していけるような場として、叢書シリーズを刊行します。第一回の配本では、「新たな学び・学校のかたち(仮)」というタイトルで次のテーマにかかわる原稿を募集します。

- GIGAスクール構想・EdTech・一人一台端末
- 新学習指導要領(カリキュラム・マネジメント、アクティブ・ラーニングなど)
- その他

\* 上記に沿うものであれば、研究成果や実践報告、啓蒙的内容など、どのようなタイプでも構いません。ただし、他の媒体に掲載されたものや、掲載される予定のものは投稿できません。詳しくは、「教職の魅力共創」ウェブサイトをご確認ください。

\* 本出版企画は、愛知教育大学からの助成を得て行いますので、執筆者には出版にかかる費用は一切かかりません。



国立大学法人  
**愛知教育大学**  
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

編集・発行／  
愛知教育大学「大学出版会を活用した地域参画型の『教職の魅力』発信プラットフォームの構築」  
教職の魅力共創プロジェクト



<https://cocreate.aichi-edu.ac.jp>